

単独支援給付金・事業計画書(単独病床機能再編計画)

1 申請者の情報		申請年月日	2022 年 5 月 20 日
フリガナ	ソウゴウビョウインヤマダチセキジュウジビョウイン	住所・所在地	山口県山口市八幡馬場53番地1
病院等の名称	総合病院山口赤十字病院		

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数	155	247		25	48	475	427
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1	155	272				427	427

※1 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は「1②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※2 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数	155	247		25		427	427
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3	155	272				427	427

※3 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「2②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数	117	260				377	377

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4					0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。

また、「(参考)病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
		5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数	

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
		6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5	48,097	77,545
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7	46,803	72,937	0	119,740

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数=年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)=6

※6 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「6②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※7 令和元年度病床機能報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は令和元年度病床機能報告の数値を計上すること。

変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		①南3階病棟	急性期一般入院料1	高度急性期	31床	31床
		②南5階病棟	急性期一般入院料1	高度急性期	50床	50床
		③南6階病棟	急性期一般入院料1	急性期	48床	48床
		④ハイケアユニット	ハイケアユニット入院医療管理料1	高度急性期	4床	4床
		⑤東3階病棟	急性期一般入院料1	急性期	33床	33床
		⑥新生児特定集中治療室	新生児特定集中治療室管理料2	高度急性期	9床	9床
		⑦新生児治療回復室	新生児回復室入院医療管理料	高度急性期	6床	6床
		⑧東4階病棟	急性期一般入院料1	急性期	55床	55床
		⑨東5階病棟	急性期一般入院料1	高度急性期	55床	55床
		⑩東6階病棟	急性期一般入院料1	急性期	56床	56床
		⑪東7階病棟	急性期一般入院料1	急性期	55床	55床
		⑫東8階病棟	緩和ケア病棟入院料2	急性期	25床	25床
計					427床	427床

※ 平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。



【令和4年度】

R4 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①北4階病棟	急性期一般入院料1	高度急性期	40床	4年10月
		②ハイケアユニット	ハイケアユニット入院医療管理料1	高度急性期	8床	4年10月
		③北5階病棟	急性期一般入院料1	急性期	40床	4年10月
		④東3階病棟	急性期一般入院料1	急性期	33床	
		⑤新生児特定集中治療室	新生児特定集中治療室管理料2	高度急性期	9床	
		⑥新生児治療回復室	新生児治療回復室入院医療管理料	高度急性期	6床	
		⑦東4階病棟	急性期一般入院料1	急性期	54床	4年10月
		⑧東5階病棟	急性期一般入院料1	高度急性期	54床	4年10月
		⑨東6階病棟	急性期一般入院料1	急性期	54床	4年10月
		⑩東7階病棟	急性期一般入院料1	急性期	54床	4年10月
		⑪東8階病棟	緩和ケア病棟入院料2	急性期	25床	
計					377床	



【令和5年度以降】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

		病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
R5 年度	病棟別内訳	①				年 月
		②	変更なし			年 月
		③				年 月
	計					床
R6 年度	病棟別内訳	①				年 月
		②	変更なし			年 月
		③				年 月
	計					床
R7 年度	病棟別内訳	①				年 月
		②	変更なし			年 月
		③				年 月
	計					床

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。
 ※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名 総合病院 山口赤十字病院

1 地域の状況	
地域の現状と課題	山口・防府医療圏の病床数は、令和2年度(2020年度)病床機能報告結果では、3,607床うち高度急性期544床、急性期1,312床となっています。 2025年の必要病床数と比較すると、高度急性期+269床、急性期+338床となっており、当医療圏では高度急性期、急性期機能の集約化、役割分担・相互連携等が求められています。
2 自施設の状況	
自施設の現状(変更前)	山口・防府医療圏において多くの診療科を抱える総合病院として、また、山口市の二次救急病院として、急性期医療の中核を担っています。 また、小児救急医療については、萩医療圏も含め、365日24時間対応できる体制を整えています。
病床数の見直し	見直しの考え方
	対象の病棟・病床の概要
	入院患者への対応
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由	
理由	地域における当院の機能を維持しつつ、高度急性期病床及び急性期病床を削減することにより、地域医療構想に掲げる必要病床の実現に向け寄与することができた。

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R4	変更時期	R5	R6	R7	計
	高度急性期	△38	R4.10予定			
急性期	△12	R4.10予定				△12
慢性期						
合計	△50					△50

※複数年度に渡る削減を予定している場合は各年度に削減(計画)病床数を記載

【参考：R2病床機能報告(山口保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	介護保険施設移行予定	合計
報告	①R2(2020)現状	544	1,312	700	1,018	33	-	3,607
	②R7(2025)予定	562	1,193	805	901	96	50	3,607
構想	③R7(2025)必要数	275	974	899	860	-	-	3,008
④構想との差(R2)(①-③)		269	338	△199	158	-	-	566
⑤構想との差(R7)(②-③)		287	219	△94	41	-	-	453